

辺野古 新基地建設

沖縄の民意を受け止め、全作業を中止せよ

赤嶺議員が「オール沖縄」の声つき付け首相に迫る



「新基地反対、普天間基地の閉鎖・撤去を求める沖縄の民意は疑いようのない形で、明確に示された。どう認識しているのか」――。安倍政権が沖縄県名護市辺野古で米軍新基地建設に向けた海上作業を強行する中、日本共産党の赤嶺政賢議員は1月30日の衆院予算委員会で、沖縄県知事選での翁長雄志氏の圧勝と、自らを含む「オール沖縄」候補が全勝した総選挙の結果を安倍晋三首相に突きつけ、新基地建設を断念するよう求めました。質問の要旨を紹介します。

日本共産党

数々の選挙で「新基地ノー」の民意は明確に示された 問答無用の基地建設強行やめよ

安倍政権は、選挙結果を「真摯（しんし）に受け止める」（首相）といいながら、建設工事への抗議活動の県民を強制排除し、海上作業を再開しました。

○安倍首相 総選挙等々があったので面会の機会がなかった。今後、連携を深めていくなかで、対話の機会が設けられていく。

●赤嶺議員 真摯に受け止めている態度ではない。民意と関係なく、問答無用で基地建設を強行する。それが（首相の）やっていることだ。

●赤嶺議員 民主主義の国であるなら民意を尊重するのは当たり前だ。直ちに会うのがスジだ。

○安倍晋三首相 一日も早く「移設」を進めることが普天間基地の危険性の除去につながる。

普天間基地の辺野古「移設」で負担が減ると、破綻した見解を再三にわたって説明した安倍首相に、赤嶺議員は「そういう政府のごまかしにノーの審判を突きつけたのが昨年の選挙の結果なのだ」と厳しく批判。安倍首相は「他に道がない」と説明したが、十分伝わっていなかった」と弁明しました。

赤嶺議員は、首相が翁長知事からの繰り返し面談要請を拒絶し続けていることを批判しました。

●赤嶺議員 有権者の負託を受けて当選した知事だ。まずは会って話を聞くのが当然ではないか。

ずさんな作業でサンゴを損傷 知事が埋め立て承認の検証委を設置。 工事は直ちに中止せよ

翁長知事は26日、前知事の行った辺野古埋め立て承認を検証する第三者委員会の設置を発表し、検証作業中の工事中止を求めました。一方、政府は現在、辺野古の海に長さ300メートル、幅25メートルの「仮設栈橋」を設置しようとしています。ダンプトラック5000台分の石材を投入するとされています。

赤嶺議員は、ボーリング調査のための現場海域に設置されているフロート（浮具）の長さ160キロのアンカー（いかり）が、昨年10月の台風19号でサンゴを損傷するなど作業のずさんさも指摘。

●赤嶺議員 まず作業を中止し、被害状況や再発防止策を明らかにすべきだ。

●赤嶺議員 ボーリング調査に名をかりた事実上の埋め立て工事が開始だ。

○中谷防衛相 フロートのアンカーの248個のうち120個が確認できなくなっている。アンカーが流れないよう重量を増やす。

●赤嶺議員 重いアンカーならサンゴを傷つけない、という素人判断だ。ボーリング調査は中止すべきだ。

○中谷元防衛相 調査後は撤去するので、埋め立てに当たるとの指摘には当たらない。



サンゴがそだつ大浦湾に巨大なコンクリートの塊を落とす沖縄防衛局の作業＝1月29日、沖縄県名護市

裏面へ